

# 北京派遣留学 体験談

21018097 廣瀬祐大

## 1 中国人生徒との交流会



北京に到着して約2週間後に日本語学科学生との交流会があった。中国人の学生たちに、日本に関する出し物をしたが、自分の班は日本に関するクイズを出題した。世界中で放送され、日本でもおなじみの「クイズ\$ミリオネア」の中国版「百万智多星」をパワーポイントで作成した。自分としては、構成こそよかったが、問題の難易度が低かったのが反省点だった。「日本のことはそれほど知らないだろう」と思ってあまりに簡単な問題ばかりを出したので、中国人の学生達に「なめられてる」と思われなかったか心配だった。

## 2 授業風景



自分のクラスには他大学からの日本人留学生のほかに、アメリカ、イギリス、韓国をはじめ、ドイツ、フランス、ハンガリー、ブルガリアからの留学生もいた。外国人の生徒とは中国語ないし英語で会話することがほとんどだった。授業は中国語と稀に英語も使って行われた。授業内でクラスメートの前でスピーチや寸劇をやることもあり、タクシードライバーの役を演じた時は場が沸くほど笑ってくれた。

### 3 中国象棋



北京に留学する前から、中国象棋をしてみたいと思った。日本語学科の生徒の中に中国象棋が得意な人がいたので、その人と中国象棋を指す機会ができた。日本の将棋とは、駒の種類や盤のデザインが違うことこそ知っていたが、細かいルールは知らなかったので、直々に教えてもらうことができた。対戦は負けることがほとんどだったが、人に教えられくらい中国象棋の知識を身につけることができた。

### 4 サークル活動



留学中はサークル活動にも積極的に参加した。中学時代に卓球していたこともあり、「北師乒協」という卓球サークルに参加した。「フォア」「バック」「スマッシュ」「ドライブ」など専門的な言葉を中国語で言えなかったが、いろんな人に積極的に声をかけて、いろんな相手と対戦することができた。日本人の留学生はいたが、日本語学科の生徒はいなかったため、中国人とはほとんど中国語で会話をし、他学科の生徒とも知り合えた。

### 5 後輩へのアドバイス

留学前に、あらかじめ留学先でやりたいことを絞っておくといい。「二兎を追う者は一兎をも得ず」ということわざがあるように、現地についてから「あれがやりたい」「これがや

りたい」などと言っていると、時が過ぎてそのチャンスを逃してしまう。また、必ずしも外国人の友達を作らなければいけないわけではなく、「日本人会」という、日本の様々な大学からの留学生で構成される組織があるので、そこで友達を作るのもいい。

(998 字)